



特集・命を守る「メイドイン堺」



確かな技術力と柔軟な発想を

「防災」「減災」に活かす!



INDEX

特集・命を守る「メイドイン堺」 —— 1

株式会社信貴造船所
トワロン株式会社
株式会社東野朝商店

気になる「さかい人」録 —— 7

被災者にそっと寄り添う
「心の救援物資」を届け続けて
福音歌手 森祐理さん

さかいモノ語り —— 11

マジックウォッシュで作りだす
二つとない自分だけのジーンズ
有限会社スポテッドホース・クラフト

確かな技術力と 柔軟な発想を 「防災」「減災」に活かす！

東日本大震災から2年。昨年の夏には「南海トラフ地震で、最悪の場合は32万人の死者」という政府の被害想定が公表されました。各地で危機意識が高まるなか、堺の高いものづくり技術によって誕生した「防災関連製品」が注目されています。国や自治体などから大きな期待が寄せられている3社をご紹介します。

高台への避難が難しい人命を 「津波対応型救命艇」で守る

株式会社信貴造船所 信貴鴻一社長

巡視船など特殊艇から 救命艇専門メーカーへ転換

数多くの造船所が並んだ大阪の木津川沿いで1934年に創業した株式会社信貴造船所。戦前の木造船に始まり、海上保安庁の巡視船や監督船といった特殊艇などを多く造ってきましたが、経営効率を図るために、現在地に新社屋を移転したと同時に救命艇・救助艇



最終設計の終わった信貴造船所オリジナルの津波対応型救命艇の模型(6.7分の1)。

の造船に特化。国内では約50%のシェアを誇っています。

「木造からスチール、アルミを経て、現在はFRPといわれる強化プラスチック製の材質が変わり、形も昔ながらのオープン型に加え、フリーフォール救命艇といわれるカプセル型も登場しています。弊社は1957年に日本初のFRP製救命艇を造船したほか、1999年にはフリーフ



全国から高い信頼が寄せられる信貴造船所の救命艇づくりを支える技術者たち。

オール救命艇の国産第一号を送り出しました」と信貴鴻一社長は語っています。救命艇については、1912年のタイタニック号海難事故をきっかけに、国際的に救命艇の装備を義務づけようという動きが生まれ、現在は「海上における人命の安全のための国際条約」によって多国間で船舶の安全確保のための規則が定められています。工場内のあちらこちらに置かれている造船中や試験を待つ救命艇の鮮やかなオレンジ色もその条約で定められた「インターナショナルオレンジ」なのです。



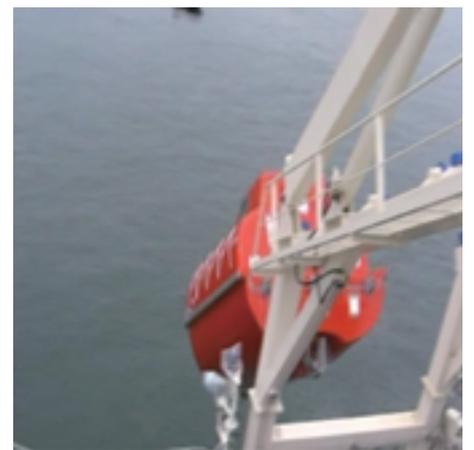
「当社の強みは、高い安全性と信頼性を確保する品質と、徹底したアフターサービスにある」と語る信貴鴻一社長。



「すでに多くの問い合わせや要望も寄せられており、津波対応型救命艇への関心の高さを実感します」と橋潤治本部長。



納入される前に社内でも厳しいチェックを何度も繰り返す。



船尾に取り付けられ、緊急時は最高22mの高さから落下させるフリーフォール救命艇の衝撃テストのようす。

豊富な実績が評価され 津波対応型救命艇の検討会へ

人命に関わる救命艇については、納入にあたって国の厳しい検査が義務づけられており、豊富な納入実績を持つ同社に一昨年の12月、国土交通省四国運輸局からある依頼がありました。「津波対応型救命艇に関する検討会」への参加です。

「東日本大震災では、多くの高齢者や子どもが津波の犠牲になりました。近くに高台がない、または高台まで移動するのが難しい人たちを守る手段として、カプセル型救命艇が考えられているのです」と話す橋潤治事業統括本部長から、さらに詳しく津波対応型救命艇について説明をもらいました。

「検討会で出たのは、平常時は校庭や病

院などの屋上に陸置きできるような脚をつけることや、救助を呼ぶための双方向性通信手段とトイレ、そして1週間分の水と食料を備えることでした。こうした検討内容は逐一公開されており、弊社でもすでに津波対応型救命艇の設計に入り、ほぼ最終の形ができています」。

仮設の居住施設にもなる 独自の救命艇を開発

救命艇メーカーとして信貴造船所が考えた「津波対応型救命艇」と

は、まず高い耐衝撃性と復原性、そして気密性を有することでした。つまり津波に飲まれても転覆しないということです。そこには、同社のフリーフォール救命艇の造船技術がそのまま活かされます。担架が設置できるよう床面をフラットにし、要望によってさ

まざまなシートパターンにもアレンジが可能です。「さらに被災後に、倉庫や仮設の居住施設として活用いただくことも考えています」と橋本部長。開閉できる採光窓や、救命艇が自立する艇と一体型となった脚、

そしてヘリコプターからの救助を想定して、救命艇の天板をフラットにしている点は、さすが救命艇メーカーの発想といえます。すでに防災担当者をはじめ、海岸エリアの住民向け説明会も行われ、高い関心が寄せられているそうです。

救命艇が役立つのは地震による津波ばかりでなく、大雨による河川の氾濫でも活躍することが期待されます。同社では、今後は海外でも信貴造船所製の救命艇が貢献できればと考えています。

株式会社信貴造船所

代表者/代表取締役社長 信貴鴻一
 本社/堺市堺区出島西町3-36
 TEL/072-241-2033
 設立/1934年創業
 資本金/1億円
 従業員数/36名
 事業内容/ライフボート、レスキューボートの製造・販売
<http://www.shigei-sb.co.jp/>



津波から防波堤を守る、 海岸用高耐久被覆線の開発へ

トワロン株式会社 藤本貴美嘉社長

環境に配慮して選定した I R樹脂で独自性を確立

1935年の創業当時は、防虫用の金網などの製造からスタートしたというトワロン株式会社。現在はポリエチレン樹脂被覆鉄線のパイオニア的な企業として、文具や家庭用品、ガーデン用品などの一般消費者向けから、落石防止網や空港・高速道路の立ち入り防止柵などの土木商品まで幅広い領域で使われる被覆鉄線の製造・販売を行っています。

「当初は被覆材に塩化ビニルを使用していたのですが、一時期、ダイオキシンを始めとする環境問題の指摘があり、ポリエチレン樹脂に代えるようになったのです」と藤本貴美嘉社長。

なかでもトワロンの代表的な製品として特筆すべきは、同社が独自に開発した「I R被覆鉄線」です。I R樹脂について、藤本邦三常務取締役は「一般的にバケツなどに使われているポリエチレン樹脂は硬く柔軟性に欠けるので、寒さや衝撃に

弱いという欠点がありました。そこで、弊社では寒さや衝撃に強く、しかも屋外に設置して長時間紫外線にさらしても劣化しにくい耐候性の高い素材を独自に模索したのです。そうして選定したのが、アイオノマー樹脂（I R樹脂）という低密度のポリエチレン樹脂でした」と語っています。

I R被覆鉄線の性能の高さが 「防災」でも期待

I R樹脂は、ゴルフボールの表皮に使用されている耐摩耗性と耐衝撃性に優れた低密度ポリエチレン系樹脂です。トワロンでは、塩分や酸、そして紫外線にも強いというI R樹脂の特長を活かし、過酷な環境にさらされる護岸や海岸などで使える「I R被覆鉄線」を開発しました。

I R樹脂は樹脂が柔らかいため、肉厚が厚くなるほど強度を増す一方、同社では長年に培ってきた技術で、心線と被覆材が強固に一体化した強力接着を実現。心線が空気や水分にふれないため、酸や



藤本社長がめざすのは「社員が誇りをもって自分の子どもを就職させたい会社」と語る。



「今は1tトラックで仕入れ、1tトラックで納品する製品ばかりですが、いつか乗用車で納品できる製品も手がけたい」と医療分野への関心を語る藤本貴美嘉社長。



「地震はいつ発生するかわかりませんから、ラジオや懐中電灯、非常用品を常備しています。自分たちの身は自分たちで守るという意識改革中です」と藤本邦三常務。

塩分濃度の高い護岸や沿岸などでも30年の耐久性を有することが認められ、一般財団法人土木研究センターから「建設技術審査証明書」を取得、すでに温泉地や河口付近の護岸などで数多くの納入実績を誇っています。

そして、このIR被覆鉄線に「防災」という視点で大きな期待が寄せられ、同社で開発中なのが、津波対策のための海岸用高耐久被覆線です。

「東日本大震災では、防波堤に津波から想定以上の力がかかり、また強い水流で防波堤の根元が洗掘されたことから防災機能を十分に発揮することができませんでした。そこで防波堤を挟むように高耐久性築堤マットを設置し、津波のエネルギーを軽減するとともに洗掘を防ぐことが考えられています」と藤本常務。

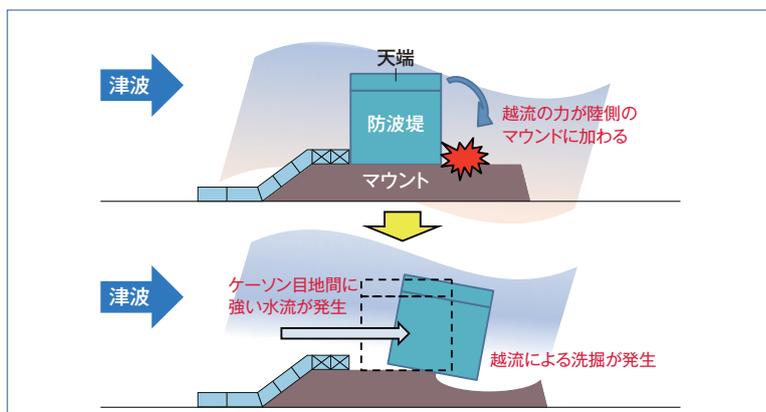
より高い耐久性が求められるなか、同社が自ら目標とするのは、百年の耐久性

国土、人命を守るために めざすは百年の耐久性

を持つ被覆鉄線です。「よく百年に一度の災害と表現されますから、設置してから百年は役立つものをめざしています」と藤本常務。まだまだ実現するにはいろいろな課題がありますが、同社が持つノウハウや技術を活かして解決していくといえます。そこには、「国や国土、そして人命を守るということに貢献していきたい」と藤本社長の思いも込められています。

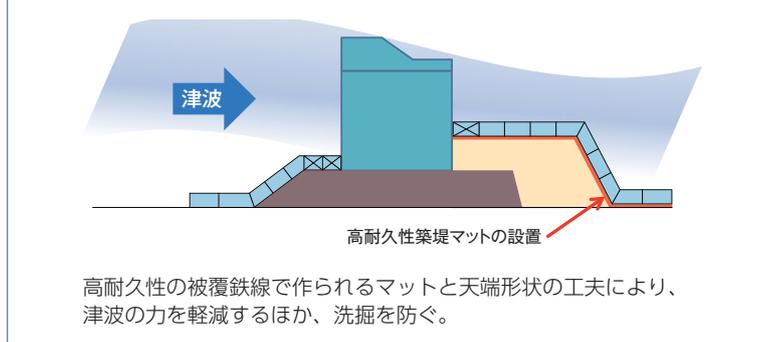
いつ起こるかかわからない災

津波から防波堤を守る「高耐久性築堤マット」



津波の強大な力が堤に直接かかったほか、越流による洗掘で防波堤が破壊される。

海岸用高耐久被覆線を使ったマットを設置すれば



高耐久性の被覆鉄線で作られるマットと天端形状の工夫により、津波の力を軽減するほか、洗掘を防ぐ。

約30年の耐久性が証明された「IR被覆鉄線」

海岸部での比較。塩分に強いIR被覆鉄線はさびないうえに、無色透明なので内部の目視検査も可能。(写真は沖縄離島で設置後7年経過したもの)



7種めっき線金網



IR被覆鉄線金網

害に備えるために活かされる技術。それが界で育まれていました。

トワロン株式会社

代表者／代表取締役社長 藤本貴美嘉
 社 社／堺市西区築港新町2-6-13
 TEL／072-245-6500(代)
 設立／1935年創業
 資本金／4,800万円
 従業員数／30名
 事業内容／特殊ポリエチレンワイヤなどの製造・販売
<http://www.towaron.co.jp/>



独自の発想力を活かして、 非常時に役立つ簡易ベッドを開発

株式会社東野朝商店 東野景一社長

少ロットでも

高付加価値なものづくりを

工場内に大きく広げられたシート。ユニット住宅をそのまま、すっぽりと覆う特殊カバーです。雨がいかっても自然と下に流れるよう、トップがドーム型に工夫されており、その開発は2年がかりだったとか。得意先企業の住宅メーカーと共同で特許も取得しています。



災害時にベッドにも担架にもなる防災用簡易ベッド。

平常時はコンパクトに収納できる省スペース型。

シート地を使った防泥・防水シートや製品を保護するための包資材を製造・販売する(株)東野朝商店では、製品は全てフルオーダーメイド生産。たとえ注文数が1つや2つでも引き受けると、東野景一社長は語ります。

「弊社では早くから海外との価格競争に陥る大量生産型に見切りをつけ、少ロットでも高付加価値な製品づくりにこだわってきました。どこでも作れるものではなく、お客様の『こんなものがあれば』というニーズに確実に応える、弊社独自の発想やものづくりを大切に考えています」。

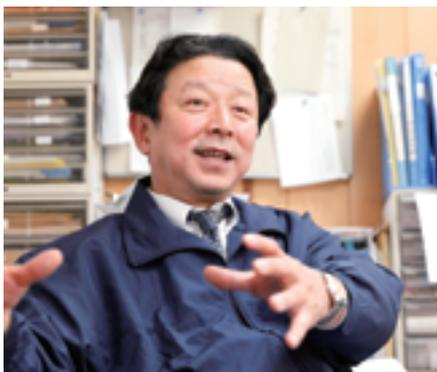
被災地で少しでも

快適な睡眠をという発想から

そうした東野社長のもとで生まれた「H A S 防災用簡易ベッド」はもともと、アウトドア用品として開発中のものでした。東日本大震災がおこり、テレビ画面に映し出されるのは、避難所で床に直接横たわっている被災者の姿や、役場で机など



ユニット住宅カバーの縫製のようす。「職人集団」を自負する同社では、社員は全員、どの工程もこなせる。



「お客様の『こんなのがあれば』をどう解決しようかと考えている時が一番楽しい。天職ですね(笑)」と語る東野社長。

をベッド代わりに泊まり込んで対応に追われている自治体の職員たちの姿です。

東野社長は「固い床の上ではさぞ、寝心地が悪いだろうし、床から舞い上がる埃を吸って身体にも良くないと思います。そこで開発中だったアウトドア用ベッドを、非常時にも使える防災用簡易ベッドに転用できないかと考えたのです」と語っています。

素材には、建設現場で使われる落下物防止用高強度メッシュ素材を採用。高い耐久性を確保しました。また、平常時に防災用品として備蓄してもかさばらないよう、コンパクトに折り畳んで収納できるようにになっていますが、いざという時には誰もが簡単に組み立てられることを重視して設計されています。担架としても使え、さらには階段室などの狭いところでも運び出しやすいよう、両サイドのパイプは抜けるようになっています。こうしたさまざまな工夫が評価され、「H

AS 防災要簡易ベッド」は、関西広域連合の「防災関連新商品」に認定され、すでに自治体への納入実績もあります。

**独自性を発揮できる
川上からのものづくりを**

「お客様の『困った』を解決してきたという自負はあるものの、メーカーとしては川上からのものづくりをしたいと考えていました。奇しくも防災用簡易ベッドがその第1号となったわけです。こうした自社ブランド製品づくりにおいて重視したのが『デザイン』で、この防災用簡易ベッドもアウトドア用として開発中の時から、堺市産業振興センターの「堺発オリジナル商品魅力アップ支援事業」を活用しました。中小のものづくり企業では手薄な領域だけに、こうした公的な支援をうまく利用していきたいですね」



ハウスメーカーの工場生産されるユニット住宅用の養生カバー。

と話す東野社長。防災用簡易ベッドでは、防災服をイメージしたグレーに赤をきかせたカラーリングにすることで、一見して防災用品であることがわかるように意図しています。

現在は、地震だけでなく洪水による浸水などから大切なデータの入ったパソコンやハードディスクなどを守るための完全防水バッグなどを実用化していきたいと考えています。

と話す東野社長。防災用簡易ベッドでは、防災服をイメージしたグレーに赤をきかせたカラーリングにすることで、一見して防災用品であることがわかるように意図しています。

現在、同社の柔軟な発想力が活かされることか。今後ますます重要性の増す「防災」に、同社の柔軟な発想力が活かされることか。今後ますます重要性の増す「防災」に、同社の柔軟な発想力が活かされることか。

株式会社東野朝商店

代表者／代表取締役 東野景一
 本社／堺市北区百舌鳥梅北町5-410
 TEL／072-252-0255(代)
 設立／1927年創業 1967年設立
 資本金／1,000万円
 従業員数／25名
 事業内容／建築包資材、ユニット住宅カバー、保冷BOX、各種テント、固定ベルト防水、防塵シートなどの製造・販売
<http://higashinoasa.com/>



BCP(事業継続計画)策定支援についてのご案内

堺市産業振興センターでは、平成24年度から、大規模災害などに備えるためのBCP(事業継続計画)について、普及啓発や策定支援のセミナーを実施しています。

BCPを策定することで、災害時に重要業務が中断しない、また、重要業務が中断したとしても目標時間内に再開することができ、災害の影響を最小限に抑えることが可能です。そして、危機対応力の向上だけでなく、取引の他社流出、シェアの低下などを防ぎ、企業の信用が高まります。

BCP策定をお考えの場合は、ぜひご相談ください。



▶お問い合わせ先

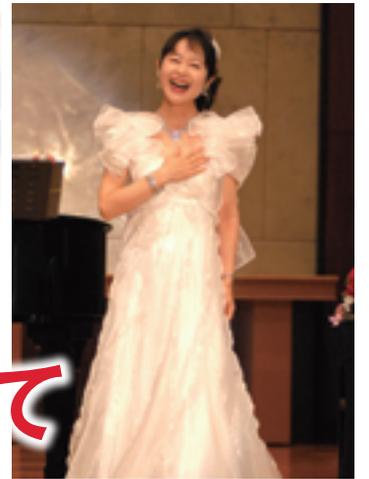
公益財団法人堺市産業振興センター経営支援課
 〒591-8025大阪府堺市北区長曾根町183-5
 TEL 072-255-6700 FAX 072-255-1185
 E-mail : keiei_shien@sakai-ipc.jp
<http://www.sakai-ipc.jp>

福音歌手 森祐理さん

大阪府生まれ。小学校から高校までを堺市で暮らす。京都市立芸術大学音楽学部を卒業。NHK教育テレビ「ゆかいなコンサート」の歌のお姉さんを経て、ミュージカルにも多数出演。現在は福音歌手として国内外での公演活動のほか、東日本をはじめ、台湾、スマトラ、中国など世界の被災地への歌の慰問を行っている。日本国際飢餓対策機構・親善大使も務める。

森祐理オフィシャルサイト
http://www.moriyuri.com/

デビュー20周年記念リサイタルで



被災者にそっと寄り添う 「心の救援物資」を届け続けて

阪神淡路大震災で大切な家族を失われた福音歌手の森祐理さんは、東日本大震災をはじめ、世界各地の被災地に「心の救援物資」と称される歌の慰問を続けられています。そうした活動の中で森さんが感じられたことなどをつかがいました。

森さんが福音歌手として生きていくことを決めたのは、ミュージカルなどでの活躍が軌道に乗り、何もかも順調に思えた頃の突然のできごとでした。

「ある朝、起きたら全く声が出ないんです。何日経っても出なくて、ああ神様はこうも簡単に私の声を取ることができるのだ。もし、また歌えるようになるのなら、神様にこの声を使わせていただきたいと思いました」と森さん。

1ヶ月ほどして声が出るようになり、歌手として本格的に復帰された頃に起こったのが阪神・淡路大震災です。仲良しだった弟さんを亡くされました。

「東日本大震災の慰問先で『地震でも津波でも泣かなかったのに、今日あなたの歌声を聴いて初めて泣いた』と言われ、私のほうが大きな感動を受けたことがあります。人は一番つらい時は涙すら出ません。心が癒されて初めて泣けるんですね。だから、この方の言葉は嬉しかった。一生、忘れることはないと思います」。

大切な家族の死で受けた心の傷が、今となってはようやく必要なものだったのだと思えると森さんは語ります。「その傷から、いろんな人の思いや優

しさが入ってくるんです。訪れた海外の被災地でのさまざまな出会いには、弟の命がつながっていると感じますし、その出会いを通して癒された方がいれば、弟の命の意味がここにあったと思えるんですね」。

森さんの堺市の思い出といえば、「泉北ニュータウンで育ったので、高校への通学で初めて市内の名所を知りました。特に母校ゆかりの与謝野晶子には、親しみがあります。母校の小学校でコンサートをした時には同級生たちが来てくれて嬉しかったですね」。

今年、ホスピスや葬儀など「死」と直接向き合う場で聴いて頂きたい癒しのCDも作られる予定だとか。聴く人の心にそっと寄り添う歌声を届ける森さんの活動は、これからも多くの人に癒しを与えられること

でしょう。



東日本大震災の被災地に向けては、物資と心の両方から救援を続けている。

堺刃物まつりを開催しました



多くの人で賑わう会場の様子



古式鍛錬(火づくり)の実演

平成25年2月9日(土)・10日(日)に第26回堺刃物まつり(主催:堺刃物まつり実行委員会)が当センターで開催されました。会場では堺刃物の展示・即売をはじめ、「古式鍛錬(火づくり)の実演」、「刃物のクリニック(研ぎ直し)」、「包丁の柄付け・銘切りの実演」などを実施しました。堺の伝統的な特産品である「堺打刃物」、「堺刃物」の技術や魅力がたくさんつまった2日間はのべ4万人の来場者で賑わい、プロの料理人に絶大な信頼を誇る堺製刃物に触れることのできる貴重な機会として定着しています。

○後援・協賛団体名

後援 近畿経済産業局、大阪府、堺市、堺商工会議所、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会、社団法人堺観光コンベンション協会、公益財団法人堺市文化振興財団

協賛 南海電気鉄道株式会社、阪堺電気軌道株式会社、大阪府都市開発株式会社

注染

線香

和菓子

第2回伝統産業子ども就業体験企画商品発表

堺市産業振興センターでは、昨年11月から今年の2月まで、全6回で第2回伝統産業子ども就業体験を開催しました。参加者は堺市内の小中学生から募集し、大学生をリーダーとしたチームで、和菓子3チーム、注染と線香は1チームで伝統産業の学習、工場見学、ものづくり体験をした後に、売れる新商品を考え、協力いただいた職人さんに商品化していただきました。また、大阪府立大学シネマクラブの皆さんのご協力で、商品コマーシャル動画も製作しました。今回、子どもたちが企画した商品は堺伝統産業会館や伝統産業会館のネットショ

ップ「イーモール堺」(<http://www.emallsakai.com/>)で販売する予定です。(発売日未定)



うSAKAI



やわらかい雪平生地で風味豊かなミカン餡を雪うさぎの形に仕上げました。(チームABOseven)

堺街MAP



堺の街をイメージした地図イラスト手ぬぐいです。堺のお土産にどうぞ。大きさは90cm×35cm。(チーム堺っおガールズ&ボーイズ)

Magic



ラベンダー・ローズのお香。2つの香りがコラボすると…香りが変わるお香、今までになかった新しい堺線香。(チームドリーム8)

桃の節句

口溶けのよい蒸しカステラの中にフルーツ感たっぷりの桃餡をサンドしました。(チーム和)



サカどら

おいしい三笠生地の上に「SAKAMIちゃん」の焼印を押しています。中餡はお餅の入った抹茶餡です。(チームKOMOSOM7)





「第1回さかい環境チャレンジ」認定企業のご紹介⑤

環境ビジネスに参入している堺市内の中小企業を「さかい環境チャレンジ企業」として認定しています。

詳細は当センターホームページをご覧ください。認定企業を掲載した冊子は当センターで配布しております。

フジコウヨウ(株) ローコストで提供する汚染環境の無害安定化処理

主な事業内容：有害重金属の無害安定化処理等

ポイント：独自の薬剤混入ノウハウを持つ環境改善のエキスパート。安全浄化をシステム提案。



〒592-8347 堺市西区浜寺諏訪森町西2-197-1
TEL 072-263-9725 <http://www.fujikoyo.jp/>

宝栄産業(株) 遮熱エコ塗料

主な事業内容：塗料製造販売等

ポイント：遮熱塗料に光触媒を加えた新技術で断熱効果に空気清浄機能やセルフクリーニング効果も。インテリア用には消臭効果が特徴です。



〒599-8233 堺市中区大野芝町94
TEL 072-235-1131 <http://www.optimus.jp>

村上精機(株) ローターエンジン発電システム

主な事業内容：精密部品・精密金型製造等

ポイント：精度の高い部品加工技術を生かして、低温廃熱利用が可能な小型・省スペースの発電システムを支える。



〒590-0983 堺市堺区山本町5-97-3
TEL 072-232-5693 <http://www.murakamiseiki.co.jp>

(株)八木萬 スナゴケを使用した緑化ユニット

主な事業内容：耐火材料・耐火レンガの用途開発及び販売等

ポイント：乾燥・暑さ・寒さに強い「スナゴケ」を使用した緑化ユニットを開発。冷暖房費の大幅削減に貢献。



〒591-8041 堺市北区東雲東町3-1-12
TEL 072-255-6643 <http://www.yagiman.jp>

(株)山崎 流水利用式マイクロ水力発電装置

主な事業内容：各種精密機械部品・搬送機器システム製造等

ポイント：独自の技術を生かした流水式水力発電装置。農業用水路など落差がない場所でも発電可能。



〒590-0154 堺市南区三木閉148-1
TEL 072-297-0168 <http://www.yamazakico.jp>

ユーアイニクス(株) 高効率安定化電源およびコンバータ技術

主な事業内容：工業用指示計・計測器等の開発・製造・販売

ポイント：高効率・長寿命の電源を完全カスタムメイド。省エネ・省資源の両方に貢献。



〒593-8311 堺市西区上123-1
TEL 072-274-6001 <http://www.uinics.co.jp>

リグナイト(株) 黒鉛-フェノール樹脂複合材料(GPS)

主な事業内容：工業用樹脂製品の製造及び各種成形加工等

ポイント：黒鉛の表面にフェノール樹脂をコーティング。燃料電池のセパレータ用材料として、高い評価を受ける。



〒592-8331 堺市西区築港新町2-5
TEL 072-241-9552 <http://www.lignyte.co.jp>

(株)ワイズ・ラブ 電子ペーパー利用ソリューション

主な事業内容：組込用マイコンアプリケーション等の開発

ポイント：紙や液晶ディスプレイを電子ペーパーに置換えて省エネ化。掲示物から物流ラベルまで多用途展開をめざす。



〒591-8025 堺市北区長曾根町3079-13
TEL 072-254-5109 <http://www.yslab.co.jp>

～ギフトには「堺の匠を贈る」～



当会館では堺の名品を集めたギフトカタログ「堺の匠を贈る」をリニューアルしました。堺の“匠の技”が詰まった141品目を厳選して掲載していますので、ご自宅用はもちろん大切な方への贈り物に是非ご利用ください。

なお、掲載商品の一部は館内にて展示・販売しています。

お申込み方法

FAX・郵送注文またはインターネット(<http://www.emailsakai.com>)でお申し込みください。

配架先

堺市役所市政情報センター、各区役所市政情報コーナー、堺市立図書館、観光案内所、堺市産業振興センター、堺伝統産業会館、堺商工会議所等

※カタログは、堺伝統産業会館のホームページでもご覧いただけます。

お問い合わせ

堺伝統産業会館

〒590-0941

堺市堺区材木町西1-1-30

TEL 072-227-1001

FAX 072-227-5006

<http://www.sakaidensan.jp/>



平成25年度 堺市の中小企業者向け支援事業のご紹介

中小企業の皆さまに活用いただける補助金です。詳しくは下記までお問い合わせください。
お問合先：堺市ものづくり支援課 TEL 072-228-7534 FAX 072-228-8816

ものづくり新事業チャレンジ支援補助金

新たなものづくりに必要な費用の一部を補助します。

■補助対象者 市内で引き続き1年以上事業を行っている中小企業者等

■補助内容

【特定技術開発テーマ枠】(採択件数：1件/年)

堺市が指定したテーマに沿い、公設試験研究機関、大学、大企業等の外部技術を活用して行う研究開発が対象
期間…2年、上限…2,000万円、補助率…補助対象経費の2/3以内

【一般枠】

期間…1年、上限…500万円、補助率…補助対象経費の2/3以内

■募集期間 平成25年5月1日～31日(予定)

堺発！売れる名品づくり支援事業補助金

堺の地域資源(歴史、伝統産品、農水産品、観光資源等)を活用した商品の開発や改良に必要な費用の一部を補助します。

■補助対象者 市内に事業所を有する中小企業者等

■補助内容 上限…100万円、補助率…補助対象経費の2/3以内

■補助対象経費 試作品開発の原材料費、加工等の委託費、パッケージなどのデザイン費、パンフレット作成など広告宣伝費、展示会出展など販路開拓費など

■募集期間 平成25年5月1日～6月28日

ものづくり省エネ・省コスト化支援事業補助金

高効率ボイラ、高効率空調機器、LED照明など、省エネ設備を設置する際に必要な費用の一部を補助します。

■補助対象者 市内で製造業を営む中小企業者

■補助内容 補助対象経費(設計費、設備費、工事費)が300万円を超えるものが対象

上限…1,500万円、補助率…補助対象経費の1/2以内

申請前に着手すると対象外となります。また、平成27年3月31日までに事業を終了することが必要です。

■募集期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日(ただし予算額に達し次第、終了)

1階常設展示場
堺のものづくりコーナー
出展企業のご紹介⑥
東洋ベンディング株式会社

当センター1階では、ものづくり産業全般の製品を展示しています。さらにパネルでも企業の説明を行い、堺の今の産業を分かりやすく紹介しています。IPCプレスでは毎回展示企業をご紹介します。

『お客様に信頼され、安全・安心な社会づくりに貢献します』

当社は、飲料・食品に関わる自動販売機器の設置・整備を主力に事業を展開している会社です。近年は、大地震から自動販売機の倒壊を防止するための脚部固定装置の開発、特許も取得し、社会に貢献できる会社をめざして努力しています。

■主な製品情報

屋内設置自動販売機転倒防止装置(免震ベースセット)、固定金具、レベリング補強脚、連結石板、マグネガード

〒590-0906 堺市堺区三宝町2丁111番地
TEL 072-222-0016 <http://www.toven.co.jp/>

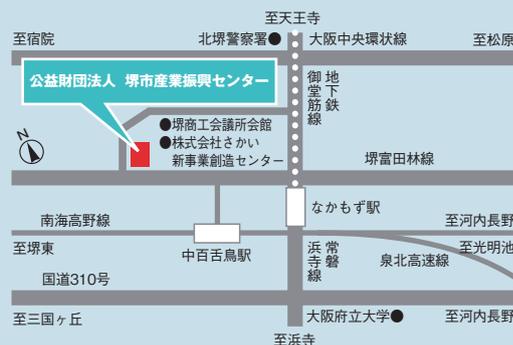


中小企業を全力応援

公益財団法人
堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5
TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200
<http://www.sakai-ipc.jp/>



◎南海高野線中百舌鳥駅より約300m◎地下鉄御堂筋線なかもず駅より約300m※駐車場は、隣接の来客用駐車場(無料)がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

マジックウオッシュで作りだす 二つとない自分だけのジーンズ

何年も穿き続けたような自然な色落ちや「ヒゲ」と呼ばれる線を、一人ひとりの個性にあわせて再現する「マジックウオッシュ」。堺区に工房を構えるスポテッドホース・クラフトが独自に開発した技法です。この技法を用いたデニム生地が日本人デザイナーのパリコレクシオンにも採用されました。小さな工房で生まれる個性的で、世界に二つとないジーンズが注目されています。

「自分の穿いていたジーンズを床に広げて眺めていると、いろんなことが見えてきますよね。ミシンでよくすれている部分や、しゃがむことが多ければお尻の部分が出ていたり。つまり、その人のライフスタイルやクセ、趣味までも、一本のジーンズは浮かび上がらせているんです。マジックウオッシュは、その人が3年、5年と穿いた時にできる自然な色落ち（アタリ）や線（ヒゲ）を、一人ひとりの体格や穿き方、クセ、毎日の暮らし方にあわせて再現するものです」と語るのは、オーナーの大園英樹さん。そのために注文票にはサイズだけでなく、日頃やっているスポーツや毎日の暮らし方、ジーンズを穿くシーンなども尋ねたことがメモされています。「何年目の時の色落ち具合が一番良かったという時期に、言ってみればジーンズをタイムトラ

ベル」させることができます」。その独自のウオッシュ法がデザイナーの山本耀司氏の目に止まり、2002春夏コレクシオンから、大園さんのマジックウオッシュを取り込んだ作品が発表されています。

「若い時から好きで親しんだアメリカのジーンズの模倣から入りましたが、今は、日本人のための細部までこだわったジーンズ作りをしていきたい」と2011年に、オリジナルブランド「OZONO」を立ち上げました。「これからブルゾンなどのトップスのアイテムも増やし、いつかはOZONOブランドだけで全身コーディネートできるようにすれば」と夢は広がります。



力強い生命力や人を癒すおらかさを持つ「樹」をモチーフとしたオリジナルブランド「OZONO」のロゴマーク

有限会社スポテッドホース・クラフト



表にアタリが出てこないようギリギリまで手作業でカットされた後ろポケットの縫い代

1999年スタートの「spotted horse」がヴィンテージデニムをイメージしたブランドである一方、オリジナルブランド「OZONO」は、大園さんのこだわりが各所に隠されています。例えば、生地は除草剤の使われていないジンバブエコットンでやわらかい風合いを出し、2本平行にステッチを入れるところも、2本針ではなく、上糸

と下糸がしっかり締まる本縫いを2回かけているのだとか。表から見えないポケットの袋地も、破けにくいようチノパンの表地に使う厚い綿を使用するなど、細かい心配りがいたるところに見られます。

有限会社スポテッドホース・クラフト
堺市堺区二条通 2-17
☎ 072-229-8155
<http://www.spottedhorsecraft.co.jp>



大園英樹社長

